

## 2018年度 海外環境フィールド実習 キリバス

### 海外短期研修参加レポート

国際交流学科 2年生

キリバスと聞いて最初に思い浮かぶのは、もうすぐ沈む国、海の綺麗な国という漠然としたものだった。いく前に少しでもこの国を知ろうと思い、基本的な情報を調べても、参考文献自体が少なく、もうすぐ沈むであったり、発展途上国であったりといったものしか見つけられなかった。しかし、実際行ってみると、私的には豊かな暮らしをしているように見えた。自給自足の生活をしている人がほとんどで、発展途上国であるのかはしれないが、みんな笑顔が素敵で心に余裕を持って過ごしているように感じた。先進国だからこそ、恵まれていない国に対し、支援を行うということは必要ではあると思う。しかし、その国が果たしてその支援を望んでいることなのか、無理に強要するだけ強要し後先の費用、メンテナンスなどを知らんぷりするような支援の仕方はよくないと思った。

一方で、キリバスといたらこれといった名産品がないのがもったいないと感じた。キリバスの草を用いた伝統的な技法で編んだコースターや、パンの実などもうまい具合に観光資源として有効活用できるのではないかと感じた。またゴミの処理に対する知識が全くなく、すべて自然に還るものだと思ってゴミをポイポイ捨ててしまうのは良くないと感じたので、そこは先進国の知識を共用すべきだと感じた。どの国に足してもゴミの問題は深刻だなと感じる。

私は、発展途上国と聞いて一方的に支援が必要と感じていたが、そんなことはなく、現地の人との生活レベルに合わせながら、現地の人に興味を持たせ、最終的には現地の人だけで回せるような環境づくりが大切だと感じた。